

「まだ夢の途中」 フレッシュユートークの その先に

上柳和貴 (高62回)

フレッシュユートークの執筆

私は、『稲穂』第8号にて、フレッシュユートークの執筆をさせていただき、「弁護士となり、社会的に弱い立場の人の力になりたい」「社会福祉の問題に取り組みたい」という夢を掲げた。恥ずかしながら、今読み返してみると、全くフレッシュさがなくなあと感じる。

もともと、私は、当時に描いていた夢を一度も忘れたことはない。その夢は、弁護士となるまでの長い道のりを支えてくれ、今では、私の信念、動力となっている。

フレッシュユートークを執筆してから6年。「弁護士となる」という夢を叶えたことを報告するため、筆を執った。

弁護士になるまでの多様な経験

大学生の頃は、社会福祉サークルに入り、身体障がい

現在、障がい者を、「保護客体」ではなく、「権利主体」として捉えるという発想が重視され、法的にも取り入れられている。そのようなことを、身をもって経験できたことは貴重であったように思う。

弁護士1年目の経験

私が弁護士として初めて単独で関わったのは、ホームレスのA氏の刑事事件であった。A氏は、さまざまな想



ゼミの仲間と大学の卒業式で (右端が筆者)

いを抱いており、私と会うたびに何度もうたがひを流して話をしてくれた。もともと、振り返ってみると、A氏がぶつけてくる想いを、裁判において引き出せたのだろうか、A氏のこれからの人生にど



●うえやなぎ・かずき
飯田市出身。2014年中央大学法学部法律学科卒。16年中央大学法科大学院卒。同年司法試験合格。司法修習を経て17年弁護士登録。現在、「法律事務所たいとう」所属。趣味はボウリング(ベストスコア203)。

がある方の在宅介助や、児童養護施設訪問などの活動を行った。

特に、在宅介助で、「私たちのような障がいのある人の味方でいてほしい」と言われたことは、今でも強く心に残っており、私を支えてくれている。

私は、大学、大学院在学中、自主ゼミを運営し、仲間と共に法的議論を尽くし切磋琢磨してきた。特に、法科大学院時代の自主ゼミは、試験直前の苦しい時期を共に乗り越え、ゼミのメンバー6人全員で司法試験合格の喜びを分かち合うことができた大切な存在である。

司法修習生の頃も福祉分野に関わるべく、練馬区社会福祉協議会での研修に3週間参加させていただいた。研修を通して、私の発想は利用者を保護の客体として捉えているのに対し、福祉専門職の方は、本人の意思の尊重を大切にしているという現場との違いを痛感した。

れほど思いをはせることができたろうかと、悔いの残る事件となった。

私は、A氏を刑事施設に収容することでは抜本的な解決とはならないと感じ、必要な福祉的支援について、A氏とともに考えた。弁護士としての関わり方を改めて考えさせられる事件であった。

私の事務所では、「司法と福祉の接点」「あなたの毎日に安心・自信・自由を」という理念を掲げ、離婚、相続、債務整理等の一般民事事件を中心に取り扱っている。障がい概念について再考する障がい平等研修(DET)や、『もうろうをいきる』という映画の自主上映会を通じた盲ろう者との交流等の多様な活動を行い、これからもその幅を広げていく予定である。

今後も活動を通じて、福祉的支援に関して研究を続けていきたいと思っている。

これからの夢

私は、弁護士として歩みだしたばかりであり、その意味では、7年前に掲げた「社会的に弱い立場の人の力になりたい」「社会福祉の問題に取り組みたい」という夢はまだ叶えられていない。これらの夢の実現に向け、質実剛健の精神で、邁進し続けたい。